

一般社団法人日本看護学教育学会第 27 回学術集会  
ナーシング・サイエンスカフェ  
広報・渉外・社会貢献委員会報告

看護ってどんな仕事？－これからの看護－

日時：2017年8月17日（木）16：10～17：40  
場所：沖縄コンベンションセンター第6会場



一般社団法人日本看護学教育学会第 27 回学術集会でのナーシング・サイエンスカフェは、看護の将来を担う高校生をゲストスピーカーに迎え、高校生が調べた看護の仕事について発表していただくという初めての企画でした。当日の参加者数は、中学生・高校生 15 名、進路指導担当教員・保護者・学会員 27 名でした。



まず、ゲストスピーカーとして、那覇国際高等学校の 1 年生が「看護と私」というテーマで、看護師になろうと思ったきっかけや、中学生まで住んでいた島の医療状況について、これからの看護と目指す看護師像を発表しました。高校 1 年生でもはっきりとした看護師像を描き、堂々と発表している姿に感動しました。



コメンテーターは、沖縄県立看護大学の看護教員の山川和歌子先生と那覇市立病院のがん看護専門看護師の吉澤龍太先生でした。患者の不安の軽減のためにコミュニケーション能力が大切であること、看護師も人間なので辛いことがあるけれど笑顔が必要であること、島の医療についてよく調べていることなど、コメントをいただきました。



続いて、具志川高等学校 3 年生の 2 人が「看護って何？」というテーマで発表を行いました。看護とは、看護職の役割、看護職の働く場所、それぞれが看護師を目指すきっかけと理想像について発表され、素晴らしい内容でした。法律における看護師の仕事の定義、看護師が働いている場所の人数と割合、国際比較を通しての看護師不足の問題の指摘など、データや根拠を示しながらの完成度の高い発表内容に、大変驚かされました。



発表後に、コメンテーターの先生方から、ご自身のキャリアの紹介がありました。専門看護師になる道や、看護師（ジェネラリスト）として働く道など、いろいろなキャリアがあるので、急がずゆっくり考えていけばよいとのコメントでした。

意見交換の時間では、高校生より、「延命治療についてどう考えるのか」「医療通訳についてどう思うのか」という難しい質問がありました。コメンテーターや広報・渉外・社会貢献委員の方々が、それらの質問に答えたり、看護や看護職について自分の考えや意見を述べたりしました。これから看護を目指す高校生の方々が、直面したその問いに真摯に向き合っている姿勢に、胸が熱くなりました。

最後に、佐藤紀子理事長より、優秀発表賞として、3名の高校生に表彰状が授与されました。



今回のナーシング・サイエンスカフェでは、本学会員にとって、「看護とは何か」という問いの原点に立ち戻ることができたと思います。そして、看護を志す、将来が楽しみな高校生達に出会えた貴重な機会でした。

(文責：三木明子、写真：山之内由美)



広報・渉外・社会貢献委員：

林優子委員長(元大阪医科大学)

任和子(京都大学)

三木明子(筑波大学)

清水安子(大阪大学)

内藤知佐子(京都大学医学部附属病院)

山之内由美(松下看護専門学校)

津嘉山みどり(大浜第一病院)

三科志穂(兵庫県立大学)